



建設会社で働く女性「建設小町」の活躍の場が広がっている。「土木は男の仕事。女性は入ってはいけない」といわれたトンネル工事のほか、営業や設計の現場にも登場。女性ならではのきめ細やかな提案で現場改革が進む。

大豊建設初の女性営業職が生まれたのは平成29年4月。大学で建築学科に進み、入社時に技術職を希望したが叶わなかった森川絃子さんだ。東京建築支店建築営業部に所属し、「相手の気持ちを考え一緒に悩み、打開策を提案する」姿勢が実り、配属半年で2件の大型受注に成功した。

工場などであらかじめ生産されたコンクリート製品を現場で組み立てて設置するPC（プレキャスト）工法が、工期短縮やコストダウンにつながるため顧客に認められると注目。PCで業界をリードする会社と信頼関係を築き、同社の新工場建設を請け負うだけでなく、顧客を紹介され受注につなげた。

森川さんは「同社工場で生産したPCを受注した物件に出荷したいという夢が叶った」と笑みを浮かべる。

「若い人が『ここで働きたい』と思うカッコイイ空間を意識した」



リケジヨの2人

創立70周年を機に改装した本社ビルのデザイン設計を担当した同支店建築設計部の平山麻子さんは出来栄えに胸を張る。エントランスや会議室フロアは天井や壁をグレーに統一、間接照明などを採用して今までのオフィス環境とは全く違った空間づくりに知恵を絞った。

大学で建築を学んだリケジヨ（理工系女性）だが、入社当初は大阪支店の設計とは異なる部署で勤務。しかし建築設計にどうしても携わりたくて、一念発起して一級建築士の資格を取得、念願の部署に配属された。「チャレンジの気持ちをアピールすれば応援してくれる」と話す。

洗練されたデザインが顧客に認められ、首都圏の注目物件を多数手がける。「デザインが形になると感動する。地図にも残る」と目を細める。

2人とも育児・家事と仕事の両立という忙しい毎日を送りながら、女性視点を盛り込んだ提案で「技術の大豊」を支える。森川さんは「女性の活躍を後押しする環境が整っている。その感謝の気持ちを忘れてはいけない」と口元を引き締める。